

## 目 次

第 1 章 臨床研究の哲学序論	1
第 1 節 臨床研究とその倫理指針の歴史	2
1 医療の進歩と人体実験の犠牲	
2 戦後の裁判と倫理指針の整備	
第 2 節 ベルмонт・レポートとは	5
第 2 章 研究と診療	7
第 0 節 ベルмонт・レポートの意義	7
第 1 節 対立する 2 つの責務	11
1 責務相反における判断	
ハード・ケース / カズイストリ / 哲学の役割	
2 義務論と帰結論, 個と全体	
義務論と帰結論 / 個と全体 / 本来的価値と直観	
第 2 節 研究に対する倫理的規制	30
1 手続と実体	
実務の問題意識 / 手続の存在意義	
2 滑りやすい坂について	
論理的バージョンへの反論 / 経験的バージョンへの反論	
第 3 章 自律	39
第 0 節 ベルмонт・レポートの意義	40
第 1 節 誰の自己決定か	46

- 1 本人と代理
- 2 西洋と東洋, 個人と家族
- 3 本書の立場: メタ倫理と一階の倫理, 文化相対主義と個人主義

## 第2節 何の自己決定か 51

- 1 参加について  
自律の内在的限界 / 自律の外在的限界①: 他者の福利の侵害 /  
自律の外在的限界②: 自己の福利の侵害
- 2 撤回について  
自律と不可逆性の論拠 / 帰結と取引能力の論拠

## 第3節 どのような自己決定か 61

- 1 能力について  
能力判定の基準 / 能力判定における境界線の所在 /  
能力判定における具体的事実認定
- 2 情報について  
何の情報か / なぜ情報か
- 3 支配の不在について  
影響力の形態 / 影響力の均衡

## 第4節 なぜ自己決定か 80

- 1 本来的価値としての自律
- 2 道具的価値としての自律  
自己所有のための自律 / 福利のための自律

# 第4章 福利.....95

## 第0節 ベルモント・レポートの意義 97

## 第1節 福利の測定可能性 99

- 1 測定基準について: 福利がどれくらい大きいか  
どのようなスケールか / 誰のスケールか
- 2 因果関係と確率・蓋然性について: 福利がどれくらいありえるか

病理生態学と、疫学・統計学 / 科学と、法学・政策学

## 第2節 福利の比較可能性 109

- 1 比較総合の可能性  
実践的重要性 / 通約不可能性 /  
数量化アプローチと直観アプローチ
- 2 比較総合の理由

## 第3節 福利の交換可能性 116

- 1 福利の質的な理由による交換制限  
時間的近接性 / 性質的同一性 / 直接的関係性
- 2 福利の量的な理由による交換制限  
福利の少なさ・無意味さを理由とする制限：医学的無益性 /  
福利の多さ・不要さを理由とする制限：エンハンスメント

# 第5章 分配的正義…………… 131

## 第0節 ベルモント・レポートの意義 132

### 第1節 医療のための正義論 134

- 1 正義の概念①：最広義とその外側  
正義概念を薄く広げる / 正義概念の外側にあるものと対比する
- 2 正義の概念②：その内部の下位区分  
分配的正義 / 矯正的正義 / 手続的正義
- 3 分配的正義の前提条件  
希少性 / 協働関係 / 同一性感情 / 小 括
- 4 分配的正義の様々な構想  
大きな枠組み再論：義務論と帰結論 / 「誰が」問題 /  
「何を」問題 / 「どのように」問題 / 小 括

### 第2節 正義のための医療論 198

- 1 歴史的経緯再論  
神や自然の領域から人為の領域へ /

優生主義と功利主義・社会主義・平等主義 /  
 国家主導から脱国家化の可能性へ：財政問題とリベラリズム

## 2 「誰が」問題再論

リベラルな優生主義と国家主導優生主義 /  
 リスク・ベネフィット評価としての私的保険と公的保険

## 3 「何を」問題再論

権限 / 資源 / 福利

## 4 「どのように」問題再論

一般的議論再論 / 特殊的議論①：人生の時間 /  
 特殊的議論②：くじ引き

# 第6章 死…………… 235

## 第1節 死をめぐる議論 236

- 1 存在するとは、存在しなくなるとは、どういう意味か  
 死ぬと存在しなくなるから、死を恐れるべきではない？：問題の所在 /  
 死んでも存在し続ける？：死をめぐる多様な存在論 / 人が存在するた  
 めにはどうあらねばならないか：主体性
- 2 死そのものは、いかにして害悪でありうるか  
 死んでしまった現実シナリオと、生き延びた仮想シナリオとの比較 /  
 早く死ぬことの害悪と、遅く生まれることの害悪の比較
- 3 死者は、害されうるのか  
 死者は害されうるということを哲学的に説明できるだろうか / 死をめ  
 ぐるレトリックの混乱や、死者を尊重したいという直観の背景にあるもの  
 とは何か

## 第2節 死をめぐる実践 246

- 1 自 律  
 自殺 / 遺言・エンディングノート
- 2 福 利  
 死そのものによる福利喪失：死にゆく人に最善のシナリオを /  
 死の副産物としての福利喪失：memento mori, carpe diem

### 3 正義

正義全般について：社会における交換の問題と自然における天命の問題  
／ 矯正的正義について：生命の取り返しのつかなさ 　／ 分配的正義に  
ついて：平等に同じ歳で死のう？

あとがき 257

初出一覧 261

参考文献 263